個別の指導計画の作成・活用

小学校

個別の指導計画を活用し 校内で共通理解を図る取組

活用した資料
実践事例集　P20
－個別の指導計画を生かした支援－

○　実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援の充実を図るため、実践事例集を参考に、個別の指導計画を作成し、校内で共通理解を図っています。

個別の指導計画（第５学年）

子どものよさ（○） 学習や生活上、困難なこと（△）	長期目標 （1 年後）
○　興味のあることは、集中して取り組むことができる。 △　自信がないことや得意としないことは取り組まないことがある。 △　情緒が不安定な場面では、教室を飛び出すなど、集団生活のルールを守れないことがある。	・自信がないことについても、自ら挑戦しようとする気持ちをもつことができる。 ・見通しをもつことでルールを守って行動することができる。 ・気持ちが安定した状態で授業を受けることができる。

短期目標 （１～３ヶ月後）	場　面	指導や支援の内容、方法	評　　価
・教師と話し合って決めた目標の達成に向けて取り組むことができる。	授業全般	・必要に応じて活動を支援したり、励ましたりするなど、当該児童の目標の達成に向けてじっくりとかかわることができる時間を確保する。	・目標の達成に向けて、取り組むことができる時間が長くなってきている。
・様々な場面でルールの意味を理解し、見通しをもって行動できる。	学校生活全般	・ルールや活動場所などを視覚的に示すことで、当該児童が規範意識や見通しをもって落ち着いて行動できるよう支援する。	・衝動的な行動が減ってきており、集団で行動できることが増えてきた。

○　実践の成果

本取組では、当該児童へのかかわり方について、校内支援委員会や関係機関との連携により検討した内容を、個別の指導計画の長期目標や短期目標として位置付けたことにより、指導や支援のポイントが明確になりました。

その結果、学校全体で共通理解を図り、当該児童への一貫した指導や支援を行うことができるようになりました。

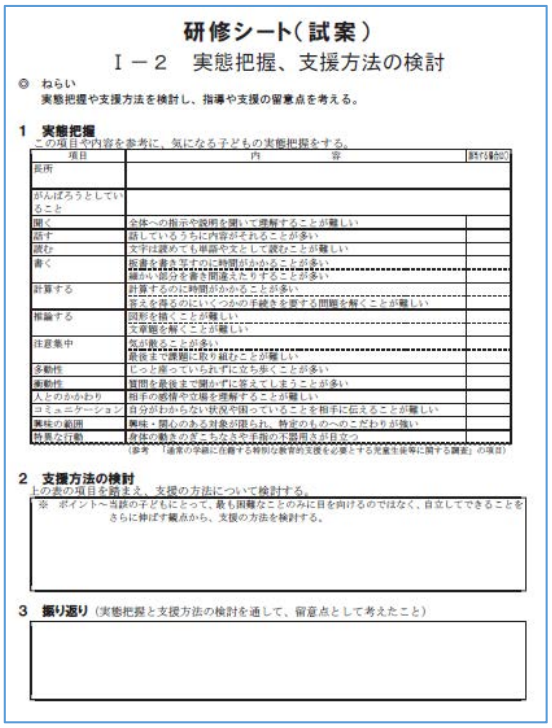
個別の指導計画の作成・活用

小学校

個別の指導計画を作成した指導や支援の充実を図る取組

活用した資料
校内研修プログラム　P20
－実態把握、支援方法の検討－

○　実践の概要



研修シート（試案）

Ⅰ－２　実態把握、支援方法の検討

◎ ねらい
実態把握や支援方法を検討し、指導や支援の留意点を考える。

1　実態把握
この項目や内容を参考に、気になる子どもの実態把握をする。

項目	内容	該当する場合は○
長所		
がんばろうとしていること		
聞く	全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい	
話す	話しているうちに内容がそれることが多い	
読む	文字は読めても単語や文として読むことが難しい	
書く	板書を書き写すのに時間がかかることが多い 細かい部分を書き間違えたりすることが多い	
計算する	計算するのに時間がかかることが多い 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くことが難しい	
推論する	図形を描くことが難しい 文章題を解くことが難しい	
注意集中	気が散ることが多い 最後まで課題に取り組むことが難しい	
多動性	じっと座っていられずに立ち歩くことが多い	
衝動性	質問を最後まで聞かずに答えてしまうことが多い	
人とのかかわり	相手の感情や立場を理解することが難しい	
コミュニケーション	自分がわからない状況や困っていることを相手に伝えることが難しい	
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い	
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ	

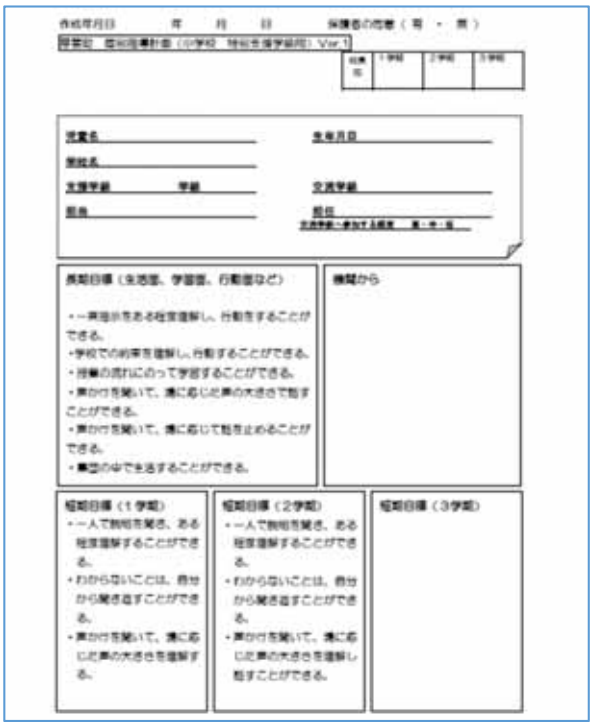
（参考　「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に関する調査」の項目）

2　支援方法の検討
上の表の項目を踏まえ、支援の方法について検討する。

※　ポイント～当該の子どもにとって、最も困難なことのみに目を向けるのではなく、自立してできることをさらに伸ばす観点から、支援の方法を検討する。

3　振り返り（実態把握と支援方法の検討を通して、留意点として考えたこと）

実態把握、支援方法の検討シート



A町　個別の指導計画（抜粋）

本校では、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援を適切に行うため、個別の指導計画を活用した指導や支援の充実を図っています。

具体的には、校内研修プログラムの「実態把握、支援方法の検討シート」を活用し、適切な目標設定となるよう、教職員が同じ視点で児童の実態把握を行っています。

また、町内の発達支援センターと連携する際に、個別の指導計画を活用することにより、地域で児童を育てる体制を整えています。

○　実践の成果

本取組では、個別の指導計画を活用したことにより、児童の心理を教職員間で深く考え、具体的な目標に基づいた支援の内容や方法を検討したりすることができました。

また、具体的な目標を設定したことは、関係機関との情報共有につながり、効果的に連携することができました。

個別の指導計画の作成・活用

中学校

個別の指導計画を活用した保護者との信頼関係づくりの取組

活用した資料
校内研修プログラム　P34
－個別の指導計画の作成－

○　実践の概要

本校では、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への効果的な指導や支援を行うため、実践事例集を参考に個別の指導計画を作成するとともに、校内委員会で当該生徒の情報を共有し、教科担任間で一貫した支援を行いました。

また、個別の指導計画を用いて、当該生徒の実態を踏まえた今後の指導や支援の在り方について整理し、保護者と懇談を行いました。

生徒のよさ（○） 学習や生活上、困難なこと（△）	長　期　目　標
○穏やかで優しく、人懐っこい性格である。 △数学等の系統性のある教科において、学習内容の定着に困難が見られる。 △学習に対する苦手意識が強い。	・前向きに取り組めることを増やす。 ・自立的な中学校生活を送る。

	実　態	短期目標	支援の手立て・ヒント
学習	・じっくりと問題に取り組むことが難しい。 ・集中力が続かない。	・１時間の見通しをもって授業に参加することができる。 ・課題に集中して取り組むことができる。	・本時の学習内容、学習の流れなどを、授業のはじめに説明する。 ・本人が問題を選択できるようにする。 ・視覚的な教材を活用する。

校内研修プログラムⅡ-１　個別の指導計画の作成

《生徒及び保護者の変化》

○　各教科において一貫した支援を行ったことにより、当該生徒は心理的に安定し、意欲的に学習活動等に取り組む場面が増えました。

○　保護者が、子どもの成長を実感したことにより、適切な指導や支援の効果を感じることができるようになりました。

○　実践の成果

本取組では、個別の指導計画に基づいて評価したことにより、生徒の実態や課題及び支援内容が明確となり、学校全体で効果的な支援方法について情報を共有することにつながりました。

また、校内の教職員間で共通理解を図り、一貫した指導や支援を行ったことにより、生徒が心理的に安定して学習に取り組むことができるようになり、その結果、保護者と学校の信頼関係が深まりました。

個別の指導計画の作成・活用

中学校

個別の指導計画を活用した指導や支援の充実を図る取組

活用した資料
校内研修プログラム　P34
－個別の指導計画の作成－

○　実践の概要

平成 29 年度　個別の指導計画
第 2 学年 E 組　氏名（　　）

生徒のよさ（○） 学習上、生活上の困難（△）		長期目標 （１年後の目標）	
○　健康で、元気がよい。 △　できることでも自信がないと取り組まないことがある。 △　教師や保護者の言葉を受け入れられないことがある。		□　必要な支援を受けながらも課題を遂行することで、達成感をもつことができる。 □　困ったときに、教師や友達に支援を依頼することができる。	
短期目標	指導場面	指導や支援の内容・方法	評価
・分からない時に教師に聞くことができる。	国語、数学、英語	課題を達成したときや支援の依頼ができたには、アイコンタクトなどで賞賛する。	分からないことを教師に聞く場面が少しずつ増えてきている。

個別の指導計画（一部）

本校では、「校内研修プログラム」を参考に、個別の指導計画を作成しています。

短期目標の達成に向けて指導場面を明確に位置付けるとともに、指導や支援の内容・方法を具体的に記載するようにしています。

個別の指導計画の作成に当たっては、小学校の担当教諭との引継ぎや、保護者との面談を重ねるとともに、町内の療育施設の担当者と情報交換を行っています。

関係者と情報交換した内容や短期目標及び長期目標の評価は、生徒指導交流会の場で教職員全体が共有してします。

○　実践の成果

本取組では、個別の指導計画を作成することにより、担当する生徒の実態や支援の方法について関係者間で共有することができるようになりました。

また、「個別の指導計画」の目標や評価などを支援会議等で検討したことにより、担任が一人で抱え込むことが少なくなり、経験年数の浅い教師の負担を軽減させることにつながるとともに、学級担任と教科担任者が同じ視点で生徒の支援に当たることができるようになりました。

個別の指導計画の作成・活用

高等学校

個別の指導計画の作成に向けた教科担任懇談会の取組

活用した資料
校内研修プログラム　P47
－個別の指導計画の作成－

○　実践の概要

本校では、教科担任懇談会において、特別な教育的支援を必要とする生徒の実態に基づいた支援方法について検討し、個別の指導計画に反映しました。

1．○○科1年　○○○○　について、次の内容のうち、当該学年の他の在籍者に比べて困難な

項　目	回答	内　容
聞く		1　全体への指示や説明を聞いて理解することが難しい（個別
		2　聞き間違いが多い（「かった」を「たった」と聞き間違え
		3　聞いた内容を記憶にとどめることが難しい
話す		4　適切な速さで話すことが難しい
		5　端的に話すことが難しい（的確な言葉を見つけられなかっ
		6　話しているうちに内容がそれることが多い
		7　語彙が少なかったり、指示代名詞を使うことが多かったり
		8　文字の読み間違いが多い（「ね」と「わ」を間違えるなど

教科担任アンケート

教科担任懇談会の実施に当たっては、特別な教育的支援を必要とする生徒の個別の指導計画の作成に向けた資料とするため、全ての教職員が「教科担任アンケート」を記入しています。

アンケートは、「学習」、「行動」、「対人関係」等の項目で構成しています。

教科担任懇談会では、アンケートの結果をもとに、各教科における特別な教育的支援を必要とする生徒の実態についての情報交流や、今後の学習目標、具体的な支援方法について検討し、個別の指導計画を作成しました。

なお、個別の指導計画の様式は、校内の特別支援教育委員会が作成しました。

個別の指導計画≪指導計画≫

○○科　1年

□各教科

★生徒の様子について	★卒業までに目指す未来像
＜よいところ・評価できるところ＞ ○暗記が得意 ○褒められると意欲的に作業することができる ○真面目である ＜困難なこと＞ △作業手順を自分で考えることができない △頑固（線のズレなどこのぐらいでいいが できない） △すぐにあきらめる △わからないとイライラする	○説明や指示を聞き取ること ○わからないことを聞くことがで ○最後までやりきる力を身につ ★確認 □出席状況（欠課5回・遅刻 □授業に取り組む姿勢（　○ □身だしなみ状況（　◎　） □課題提出　（　期日内　） □課題等の完成度　（　△　）

★短期目標	★指導や支援の内容、方法（工夫）	★評価
・作業手順を考えられようになる	・個別に話をする ・最後までの工程を話し、見通しを持たせる	・個別対応により見られ、落ち着参加できるよう

教科担任懇談会で作成した個別の指導計画

○　実践の成果

本取組では、個別の指導計画を活用した教科担任懇談会を定期的に開催したことにより、生徒の実態や支援の方法について共通理解を図ることができました。

また、学級担任だけでなく教科担任など、全ての関係教職員が個別の指導計画の作成に携わったことにより、指導方法や個別の支援について共通理解を図ることができました。

個別の指導計画の作成・活用

高等学校

個別の指導計画の内容と様式を改善し効果的に活用する取組

活用した資料
校内研修プログラム　P72
－個別の指導計画を作成しよう！－

○　実践の概要

本校では、校内研修プログラムを参考に、学校全体で個別の指導計画を効果的に活用できるよう、様式の見直しを行いました。

作成日：平成　年　月　日
中間評価：平成　年　月　日
最終評価：平成　年　月　日

年　組　氏名

生年月日：平成（　）年　月　日（満　歳）　担任名

生徒のよさ

できること◎、できないこと△、得意なこと◎、苦手なこと△などを記入する
性格面や、行動面についても、できるだけ具体的に、わかっていることを記入する

1 ◎	1 △
2 ◎	2 △
3 ◎	3 △
4	4

高校卒業後の目標

本人の希望	保護者の希望

今年度の目標（長期目標）　高校卒業後の目標達成のために

どのような力を身に付けるか	評価（取り組んできて、どうなったか）
生活面	
行動面	
学習面	
その他	

1学期末までの目標（短期目標）

今すぐに取り組むこと、達成できることなど	評価（取り組んできて、どうなったか）
生活面	
行動面	
学習面	
その他	

各分野での目標

身に付けさせたい力をもとに、各分野での目標を設定する	評価（必要に応じて各教科担当より聞き取り）
国　語	
計　算	
運　動	
実　習	
その他	

気になること、配慮が必要なことを記入
>>>

【様式のポイント】

項目を必要最小限にしてＡ４判１枚にまとめています。

生徒の得意なことや苦手なことを◎と△などの記号で簡単に記載できるようにしています。

保護者との連携に向け、個別の教育支援計画の要素を加えています。

長期目標と短期目標を生活面、行動面、学習面、その他の視点で設定できるようにしています。

個別の指導計画は、各教科担当者等が分担して記入するなどして、作成しました。より効果的な支援につながるよう、各教科担当者等の協議を通して、年度の途中に目標の達成状況を評価し、目標の見直しを行っています。

○　実践の成果

本取組では、個別の指導計画の項目を精選することにより、目標の達成状況の評価や見直しを短時間で行うことができました。

また、複数の教師で個別の指導計画の作成や評価を行うことにより、生徒一人一人の指導や支援を共有し、学校全体で取り組めるようになりました。

個別の教育支援計画の作成・活用

幼稚園

ねらいを明確にした交流等による小学校との連携の取組

活用した資料
取組事例集　Ｐ75～89
－個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成、活用の実践－

○　実践の概要

本園では、幼稚園教育と小学校教育のスムーズな接続を視野に入れた幼稚園・小学校の連携の充実を重点の一つとしています。連携については、それぞれのねらいを明確にするとともに、年間計画に位置付けるなど、見通しをもって進めています。また、園児が授業参観や授業体験、給食試食会に参加する際には、個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して、幼児の実態の共有や具体的な引継ぎ等を行うなど、組織的・計画的な取組を進めています。

□　**小学校体験学習のねらい**

「小学校の様子が分かり、児童と『一緒に遊ぶ』体験を通して安心感と期待感をもつ。」

○　**授業体験の内容**
- 第１学年の机と椅子を使って、学習する。
- 問題を見て、分かった園児は手を挙げ、指名されたら答える。

○　**授業体験の成果**
- 授業の雰囲気や発言する時の方法が分かりました。

○　**学校探検・授業参観の内容**
- 校内にどんなものがあるのか調べる。
- いろいろな教室や授業の様子を見学する。

○　**学校探検・授業参観の成果**
- 校内の様子を見ることで、「早く体育館で遊びたい」「勉強をがんばりたい」など感想を発表する園児が見られました。

授業体験会の様子

□■教師の配慮■□
- 教師が説明した内容を理解しているかどうか確認する。
- 説明したことを理解して取り組んでいるか確認する。
- 一人で取り組むことが難しい園児には、状況に応じた方法で支援する。
- 取組の途中で一人一人のがんばりや姿勢を認め励ます。
- 楽しく活動できたか、園児一人一人に振り返る場面を設ける。

年間を通じた小学校との連携は、園児と児童による子ども同士の交流のほかに、公開保育研究会における教職員同士の交流、講話会や就学に向けての引継ぎを通じて、保護者の理解と協力を得るための交流など、多くの取組を行っています。

○　実践の成果

年度当初に交流に当たっての打合せを行う日程を決めたことにより、具体的なねらいや取組内容について、小学校と共通理解を図りながら計画的に進めることができました。

また、幼稚園の教育活動に体験学習や交流活動を位置付けたり、スタートカリキュラムを活用して、小学校の生活や学習を見通したりするなど、就学に向けた準備を進めることができました。本園では、園児が入学後すぐに学校生活に慣れることができるよう小学校に、これらの取組に加え、小学校に対し、個別の教育支援計画等を活用し、園児の特徴や性格、一人一人のよさをきめ細かに伝えることができました。

個別の教育支援計画の作成・活用

幼稚園

関係機関と連携し
園内の支援体制の充実を図る取組

活用した資料
校内研修プログラム　P66、73
－個別の教育支援計画の作成－
－個別の教育支援計画の作成を目指そう！－

○　実践の概要

子ども理解シート（就学前）

作成日：　29年　8月　25日　記入者：担任○○○
見直し日：　年　月　日

5才　△ヵ月　氏名　○○　○○

項目	よさ・できること		気になること	
	本人について	環境について	本人について	環境について
	記入例 ～はできている ～は得意だ ～なふうによくなった	記入例 こんな場所や時ならできる こんな人や物とならできる このように関わればできる その他、子どもの育ちにプラスとなることなど	記入例 ～はできづらい ～は苦手だ ～ことが気にかかる	記入例 こんな場所や時にしない、できない こんな人や物だとしない、できない このように関わるとしない、できない その他、子どもの育ちにマイナスとなることなど
生活面	ここに書くことは・・・睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔の習慣、生活時間や行動順序など、生活全般に関することです。			
	・言葉をかけると、スリッパを人の分まで並べてくれる。 ・褒められると喜んで、お手伝いをしようとしてくれる。	・クラスの当番活動は、喜んで行ってくれる。	・椅を向いて座る姿勢が悪いことが多い。 ・手洗いうがいは、面倒がって、やっていないのに「やった。」と言うことが多い。 ・歯磨きは、簡単に済ませてしまうことがある。	・朝のお支度など、やり始めるまでに時間がかかり、目についたものに夢中になってしまう。 ・「歯ブラシ忘れた」と言って歯磨きしないことがある。
行動 感情 性格 感覚	ここに書くことは・・・行動や性格の特徴、感情の起伏や気持ちのコントロール、敏感さや鈍感さ、などです。			
	・優しい性格。 ・人懐っこい性格。 ・自分の好きなことややりたいと思ったことには夢中になる。	・小さい子が好きでお手伝いをしたがる。 ・泣いている子に声をかけるなど優しい一面がある。	・思ったこと、感じたことなど、状況を見すにすぐに行動してしまう。 ・注意されると、唾を吐く。 ・集団の中で声をかけられても、気付いていないことが多い、すぐに行動に移すことができない。	・気になることがあると周りの状況を忘れてしまう。 ・自分がやりたいと思うと自制できない様子。 ・基本的なルールやその場の約束事は、わかっていても守れないこともある。 ・おおざっぱで体の使い方が不器用な様子。
遊び	ここに書くことは・・・得意な遊びや苦手な遊びです。運動遊びや制作遊び、考える遊びや学習につながる遊びも含みます。			
	・「○○が絵本読んであげる」といって、創作した内容で絵本を読んでくれる。 ・ままごとが好きで、赤ちゃん役になりたがる。	・お絵かきや折り紙が好き。 ・鬼ごっこやかけっこ、転がしどっちボールなど、体を動かす遊びにも興味をもって遊んでいる。	・同年齢の友だちと関わって遊ぶことが少ない。（特に女児） ・自分のやりたいことを優先させてしまい、自分なりのル	・ドッヂボールでは、ボールが投げたくて、周りの子を押したり、怒ったりすることがある。

子ども理解シート

本園では、町内の母子通園センターと連携して、園児の発達の様子についてケース会議を実施し、情報交流を行っています。また、地域連携による教育の観点から特別支援学校にコーディネーターの派遣を要請したり、必要に応じて小学校の教員が来園したりするなど、地域の関係機関と連携する取組を行っています。

ケース会議の様子

今後の保育環境の改善点や園児への具体的な支援に生かせるよう、月ごとに実施している園内のケース会議では、教員等によるカンファレンスを行うとともに、「子ども理解シート」をもとに、「個別の教育支援計画」を作成しています。

○　実践の成果

本取組では、関係者が保育場面を参観し、カンファレンスに参加したことにより、園児の様子やクラスの状況等を幅広く交流することができました。

また、客観的に園児の様子をアセスメントしたことにより、本園の保育を見直すとともに、具体的な改善策を講じるなど、指導や支援の充実につなげることができました。

個別の教育支援計画の作成・活用

小学校

個別の教育支援計画を活用し、組織的な支援体制の充実を図る取組

活用した資料
校内研修プログラム　P22
－個別の教育支援計画の作成－

○　実践の概要

①前年度までの気づき	学習	国語	問題文を読み取ることが苦手である。		
		算数	計算問題はできるが、文章問題は内容理解が不十分なため難しい。		
		その他	注意が散漫し、一斉の指示を聞くのが難しい。		
	日常生活 対人関係		・自分の思いが通らないと、大声を出したり物を蹴ったり、注意をひこうとする。 ・きまりを守れず、登下校時に危険な行動をとることがある。 ・自分の思いを言葉にできず、相手が嫌がることをして、トラブルになることが多い。		
	得意なこと 好きなこと				
②特徴的なつまずき	特徴的なつまずき		具体的な場面	保護者から	・兄や周りから情報を聞き、トラブルになっていることや、人に迷惑をかけていないか心配している。
	学習ルール		授業中トイレに行くことがある。（休み時間他のことに気をとられ、行けない場合）		
	掃除		掃除はやりたがらない。		
	給食時の偏食		好きな物は食べるが、野菜や魚など嫌いな物は食べようとしない。また、お弁当は全く食べない。		
	こだわりが強い		自分の物が身の回りから離れるのを嫌がる。		
	検査名	実施日		他機関	
③支援の方針	学習		・自分の考えを書くときには、書き方の例示をするなど手立てを講じる。 ・全体への指示が本人に伝わらない場合には、文章に書くなど、個別に視覚的支援を工夫して提示する。		
	日常生活対人関係		・気持ちが安定しないときは、近くから優しく声を掛けるなど、安心感を与えるようにする。 ・友達とのかかわりについてトラブルが起きたときには、本人がどうしたかったのか思いを聞きながら、正しい解決の方法に導く。 ・衝動的な行動がおさまらないときは、校長室などの別室で気持ちを落ち着かせる。		

個別の教育支援計画（一部）

本校では、組織的に子どもにかかわるために、校内委員会を中心とした、学校独自の支援シートを作成しました。

シートの作成に当たっては、校内研修プログラムや北海道教育委員会が示している個別の教育支援計画の様式を参考に、子どもの支援について、保護者と学校が連携した取組を進めることができるように、項目を精選しました。

作成に当たっては、特別支援教育コーディネーターが中心となり、子どもにかかわる情報を整理し、全教職員で情報を共有することができるよう体制を整備しています。

○　実践の成果

本取組では、子どもの実態に応じた支援について、全教職員が共通理解したことで、組織的に対応する体制を整えることができました。

また、子どもの成長した姿を支援の成果として捉えたことにより、一貫した効果的な支援について全教職員で共有することができました。

個別の教育支援計画の作成・活用

小学校

切れ目のない支援体制の確立を目指した取組

活用した資料
校内研修プログラム　P22
－個別の教育支援計画の作成－

○　実践の概要

サポートシート　氏名（　　）所属（　　）担任（　　）

	項　　目	A	B	C
生活面	○毎日の生活リズムが安定している。			
	○身の回りのことが自分ひとりでだいたいできる。			
	○食事面（時間・量・好き嫌い）について心配がない。			
	○トイレ（排泄）面について配慮の必要がない。			
	○自分の持ち物の整理整頓ができる。			
集団面	○集団の一員として行動できる。			
	○全体の指示を聞いて、行動することができる。			
	○周りのようすを見て、行動に移すことができる。			
	○自分の気持ち（イエス・ノー）を伝えることができる。			
	○周りの子どもに優しくかかわることができる。			

サポートシート

＜記入例＞

児童名	診断・相談歴等	実態、支援が必要な場面・支援の様子（学習面・生活面・集団面など）	家庭の様子	先生方へのお願い
○○○○ 写真	ひかり教室利用 きずな園利用（隔週） 発達検査結果	＜学習面＞ ・国語と算数はひかり教室で学習し基礎的な内容に取り組んでいる。 ・交流学習では個別の声がけが必要 ＜生活面＞ ・自分の身の回りのことが、自主的に取り組めるようになっている。 ＜集団面＞ ・言葉でのやりとりが苦手だが、もともと明るくやさしい性格で、友人関係も広がっている。	・学校に対して大変協力的。 ・集団の中での学習も大切にしたいと考えている。	・困っている場面を見かけたら、「どうしたの？」と声をかけ、一緒に考えてあげてください。

支援委員会用シート

本校では、幼稚園や保育所、関係機関等との連携を重視した、切れ目のない支援体制の確立を目指しています。

具体的には、サポートシートを活用した情報交流を進め、全ての関係機関と必要な情報を共有し、児童一人一人の個別の教育支援計画の作成に生かしています。

個別の教育支援計画の作成や活用に当たっては、支援委員会用シートを活用することで児童の情報を共有し、複数の教職員が同じ方向性のもと、指導や支援が行えるよう取り組んでいます。

本校では、個別の教育支援計画を活用した幼稚園や保育所と小学校のきめ細かな連携を行うなど、入学前から児童一人一人の実態を把握することを大切にしており、切れ目のない一貫した指導や支援の実現に向けた取組を進めています。

○　実践の成果

本取組では、ケース会議や教育相談でサポートシートを活用することにより、関係機関と情報の共有を行うだけでなく、一人一人の児童への指導や支援が切れ目なく行えるようになってきました。

また、支援委員会用シートを活用したことにより、教職員間の情報共有が図られ、一貫した指導や支援につながったため、児童の情緒の安定や学習習慣、生活習慣の定着が図られました。

個別の教育支援計画の作成・活用

高等学校

切れ目のない指導や支援を目指した中学校と連携した取組

活用した資料
実践事例集　Ｐ35
－個別の教育支援計画を活用した引継ぎの例－

○　実践の概要

本校では、新学期に第１学年のホームルーム担任が、出身中学校を訪問し、中学校第３学年時の学級担任と引継ぎを行い、生徒の支援に生かす取組を行っています。また、夏季休業中には、家庭訪問を実施し、学校での様子を保護者に伝えるとともに、家庭での様子を把握するようにしています。

時　期	内　容
３月末	ホームルーム担任決定後、担任が新入学生の各出身中学校を訪問し、出身中学校の学級担任と面談し、生徒の様子や支援内容について把握する。
４月初	ホームルーム担任が把握した情報を簡潔にまとめ、年次団や教科担当者など、学校全体で共有し、指導や支援に生かす。
夏季休業	ホームルーム担任が教科担当、部活動顧問等から聞き取りを行い、学校での様子を家庭訪問において保護者と懇談する。

中学校訪問における確認事項

(1)　生徒指導面
(2)　特別な配慮
(3)　ＰＴＡ
(4)　部活動・生徒会活動
(5)　持病
(6)　いじめ
(7)　学費等の納入状況
(8)　その他

○　ホームルーム担任が、中学校から聞き取った内容をまとめ、学年団や各教科担当者など学校全体で情報を共有します。
○　教科担当者は、学校全体で共有した情報をもとに、当該生徒への支援を工夫するとともに、ホームルーム担任は、中学校に行われていた具体的な配慮について、高校生活においても継続して配慮できるよう学級運営上の工夫を行います。

○　実践の成果

中学校との引継ぎでは、個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいた説明を受けたことにより、具体的な支援や配慮する事項について確認することができました。聞き取った情報を学校全体で共有することにより、生徒の教育的ニーズに応じた指導や支援を行うことができるようになりました。

その結果、入学してきた生徒がスムーズに高校生活を送れるようになりました。